

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0971000252		
法人名	特定非営利活動法人にちにちそう		
事業所名	グループホームにちにちそう		
所在地	栃木県大田原市富士見1-1604-45 (電話) 0287-20-1116		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年10月28日	評価確定日	平成21年12月9日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算5.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円~40,000円	その他の経費(月額)	・光熱水費—12,500円 ・日用品・教養娯楽費—200円/日 ・理美容代、おむつ代、嗜好品—実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	350円	おやつ(食事代に含む) 円	
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	3名		要介護2	2名		
要介護3	2名		要介護4	1名		
要介護5	1名		要支援2	名		
年齢	平均	85.8歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ダイナリハビリクリニック、小倉歯科、赤羽医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、民家を改修し、「家」として地域に溶け込み、外観、内装からもその雰囲気を存分に醸し出している。通りがかりの近所の方から「お年寄りが暮らしていらっしゃるんですね」と声をかけて頂くようになり、敬老会にて近所の方が唄や踊りを披露しに来所してくれるなど、地域のボランティアを積極的に受け入れ、誰もが気軽に立ち寄れる親しみやすさを持っている。さらに、ホームの広報誌である「にちにち通信」でもその様子を伝えたり、月1回の入居者による会議においても、入居者目標や外出先を決めるなど、自立支援を念頭においた入居者主体の生活作りに努めている。経営者から管理者、職員に至るまで、入居者一人ひとりの生き方に尊厳を持って日常を大切に、ごく普通の家で普通に暮らす大切さを支援している温かさを持ったホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果の課題であった、運営推進会議の参加者については、色々な立場の方の参加を依頼することにより、豊富な意見を聴くことができ、より質の高い会議にすることができるようになった。また、同業者との交流促進についても、職員同士の見学や実習が実現し人的交流に繋がり、相互に質の向上を図ることができるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	白紙の自己評価票を全職員に配布し、記入後全職員で話し合いを行い、管理者がまとめた。自己評価の意義、求められている事を全職員が理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、入居者家族代表、自治会長、民生委員、基幹型支援センター職員、地域包括支援センター職員等の参加がある。会議では利用状況実績報告や入居者の生活状況報告、家族会の報告等を行い、意見や助言をもらい運営に活かしている。なお、入居者家族へは会議の開催通知を全家族に通知し、出来るだけ多くの家族の参加が得られる様努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、請求書の送付時に1か月の生活状況等を写真入りで送付したり、運営推進会議への参加依頼や会議の場でも報告を行っている。職員の異動については、広報誌「にちにち通信」で報告している。金銭管理は、職員2人で出納帳を確認し合い、家族へも来所時に報告している。意見や要望の把握については、玄関に意見箱を設置するとともに、苦情窓口や苦情連絡先を掲示している。広報誌にも苦情相談窓口や電話番号を掲載している。契約時にも苦情受付窓口等の説明を行っており、家族の来所時には、ざっくばらんな話が出来る雰囲気作りに努め、意見や要望等を聴いている。意見や要望等があった場合は、職員間で十分に話し合い改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民へは、広報誌の回覧を通してホームで実施している行事への参加の呼びかけや、内部の様子等を掲載することで、地域の方が立ち入りやすい雰囲気を作り出している。広報誌には、認知症や健康についての情報の掲載も行っている。散歩や買い物時などを通して声を掛け合う機会を持ったことにより、敬老会、バーベキューに地域のボランティアの参加を得られるなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営理念は「入居者が活き活きと生活できるように援助するとともに、それを支える家族への継続した支援をすること」となっており、職員はその理念を基に「ゆとり、優しさ、思いやり」を支援の目標としている。入居者も入居者の会で決めた「身体を動かし、楽しく元気に暮らそう」を今年度の目標として掲げている。事業所、職員、入居者がそれぞれの目線で、よりよい生活を事業所全体で達成に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践にあたっては、入居者や家族のニーズにきめ細かく対応し、情報を共有するために職員を2グループに分け担当制にするなど、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民へは、広報誌の回覧を通してホームで実施している行事への参加の呼びかけや、内部の様子等を掲載することで、地域の方が立ち入りやすい雰囲気を作り出している。広報誌には、認知症や健康についての情報の掲載も行っている。散歩や買い物時などを通して声を掛け合う機会を持ったことにより、敬老会、バーベキューに地域のボランティアの参加を得られるなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は職員会議で周知徹底され、日常的にも評価に係る事柄を随時話し合っている。自己評価票の作成にも全職員が参加し、その意義はもちろん、評価結果を考察し、全員で具体的な改善に取り組んでいる。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、入居者家族代表、自治会長、民生委員、基幹型支援センター職員、地域包括支援センター職員等の参加がある。会議では利用状況実績報告や入居者の生活状況報告、家族会の報告等を行い、意見や助言をもらい運営に活かしている。なお、入居者家族へは会議の開催通知を全家族に通知し、出来るだけ多くの家族の参加が得られる様努めている。	○	会議の出席者が行事に参加したことにより、入居者がより楽しむ為の意見や評価が得られたことから、ホームの質の向上に活かしていく取り組みに今後も期待したい。また、入居者家族全員に会議への参加を呼びかけているが、特定の家族の出席に偏りがちである事から、更なる工夫を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡協議会が、グループホーム、小規模多機能の地域密着型事業者に分かれて勉強会を実施したり、ケアマネージャー連絡協議会への参加により、情報交換、サービスの質の向上に取り組んでいる他、事業所の周辺でかかえる様々な課題の多くを市担当職員との協力により解決している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、請求書の送付時に1か月の生活状況等を写真入りで送付したり、運営推進会議への参加依頼や会議の場でも報告を行っている。職員の異動については、広報誌「にちちち通信」で報告している。金銭管理は、職員2人で出納帳を確認し合い、家族へも来所時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所玄関に意見箱を設置するとともに、苦情窓口や苦情連絡先を掲示している。広報誌にも苦情相談窓口や電話番号を掲載している。契約時にも苦情受付窓口等の説明を行っており、家族の来所時には、ざっくばらんな話が出来る雰囲気作りに努め、意見や要望等を聴いている。意見や要望等があった場合は、職員間で充分に話し合い改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職については、入居者会議やお茶の時間に説明をしている。9名の入居者を、5名と4名に無作為に分け、職員もAグループとBグループに分かれている為、グループ内で異動や離職等があっても入居者へのダメージは少ない。又、新入社員には早く入居者と慣れてもらう様、入社当初から積極的に色々関わって、馴染みの関係作りに配慮している。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への参加については、経験年数等を考慮し、取得できる資格や研修の機会を確保できる様支援している。研修へ参加した職員は、職員会議時に報告を行い、全職員が学べる機会を共有している。認知症介護実践研修には交替で受講している。内部研修もテーマを決めて適宜行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の呼びかけで、今年度から事業所連絡協議会をグループホームと小規模多機能型に分けて情報交換会を実施しており、職員による他事業所の見学や実習により同業者と交流する機会が増えてきている。ケアマネジャー連絡協議会への参加を通してサービスの向上に取り組んでいる。相談が出来る市内の同業者もいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時は、入居前に本人を訪問して、ケアマネジャーや各職員が本人や家族の希望、不安等について十分な聞き取りを行い、介護計画に反映させている。居室内の環境づくりに関しても、在宅からの違和感がないよう家族へ協力を依頼し、早くホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。入居後は担当職員により、入居者間の関係づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器拭き、洗濯物たたみ、畑仕事、花の水やり等、職員のサポートのもと入居者の残存機能を活かせる生活をしている。伝統行事や風習等、入居者から学び協力し合える関係を築いている。また、担当職員が入居者の不安や希望を聴きだす努力をしており、快適な生活ができるよう配慮している。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握については、日常的な会話や家族からの聞き取りを基に既存のセンサー方式を深く掘り下げ、事業所独自のアセスメントシートにより全職員で共有に努めている。意見の表出が困難な場合は、部分のみではなく、全体像を捉え入居者の代弁者となれるよう担当制にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成については、普段から入居者や家族の意見に耳を傾け、職員の意見も偏らない様、情報交換の機会を多く持つことで、より多くの意見を参考にしうえで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、月1回のモニタリングにおいて個々の介護記録や申し送りノートを活用して入居者の状況に応じた見直しができるよう配慮している。1年を目安に定期的な見直しを実施しているが、大きな変化があった時には入居者、家族、医師等と相談を行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状態によって通院支援をしたり、入居者の要望にそって衣服や趣味の小物等の買い物に出掛けたり、お墓参りに付き添う等、柔軟な支援に努めている。		

グループホームにちちちそう


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族からの希望により、かかりつけ医に受診を行っている他、5名の入居者についてはかかりつけ医の往診を2週間に1回受けている。歯科治療も往診で行っている等、協力医療機関との連携を図りながら、看護師資格を有する管理者とも相談することで、適切な医療が受けられる様支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、本人の意向を知る努力をしている。家族の意向も予め確認しておくが、そのような状態になった場合には改めて意向を確認し、医師との協働のもと、方針を決定している。過去に看取りをした入居者もあり、あくまでも関係者全員の合意が基本ではあるが、看取りを視野に入れた支援に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者との生活が長くなっても馴れることなく、人生の先輩として敬うことを大切にしている。同性介助など誇りやプライバシーに配慮しながら支援している。記録は事務室の書庫に保管している。地域にも回覧する広報誌への入居者の写真の掲載について意向を確認し、同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが、入居者の希望にそって柔軟な支援ができるよう努めている。訪問日も入居者それぞれのペースで経過しており、職員が慌ただしく動いたりする姿も見られなかった。入居者会議など入居者が選ぶ、決める場面づくりもしている。		

グループホームにちいちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員で話し合いながらメニューを決め、野菜の皮むきや食器拭き等、「作る・食べる」楽しみが持てるよう配慮している。また、入居者各々に合った食事形態や調理法も考慮し、ある程度調味料等も自由に使えるよう提供している。職員は、入居者のできることへの支援を行いながら共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者や家族とも相談の上で本人の体調にもよるが、希望時には随時入浴できるよう柔軟に対応している。入居者の中には入浴の順番を気にする方もいることから、トラブルを避けるために、その日の「挨拶当番」が一番風呂とするなど、公平になる様配慮している。ゆず湯や菖蒲湯など、季節を感じながら楽しんで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験のある入居者のアドバイスで野菜等を育て、みんなで収穫の喜びを味わったりと、生きがいを持って畑仕事をしたり、積極的に台所仕事や掃除に役割をもって取り組む入居者に対して、職員は温かく見守りながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園に散歩に行った際、地域の子供達と父兄との交流があったり、そこでお弁当を食べることもある。毎日の食材の買い出しにも入居者に同行してもらっている。買い物が趣味という入居者と洋服を買いに行ったり、編み物をする入居者には、自分で毛糸を選ぶ楽しみをもってもらうなど個別の外出要望にも柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、戸が開くとチャイムがなる様になっていて、鍵はかけていない。事業所前の道路は車の往来が多いが、職員の見守りにより、入居者は安全に生活している。		

グループホームにちにしそ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルに基づき避難訓練を年2回実施している。避難場所については、隣接のアパートの大家さんに協力を依頼し、駐車場を避難場所として確保している。また、日頃より災害時は、地域住民から協力が得られる様依頼している。	○	ホームとしての訓練を、継続的に実施していくことは勿論、今後、地域住民と合同で訓練が行えるような取り組みに期待したい。また、消防署などが開催する救命救急研修等にも全職員の参加が実現できるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の小規模多機能型の栄養士のアドバイスも参考に入居者の好みを取り入れながらバランスの良い食事を提供している。病気により食事や栄養の摂取状態の悪い方には、医師の指導の下で補助的に栄養剤等の使用やきざみ食等の配慮も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者の写真を掲示したり、いつでも誰でも閲覧できるようにアルバムを置いたり、入居者と共に季節の花々を飾って明るい雰囲気作りを心がけている。レクリエーションで作った毎月のカレンダーや貼り絵等も共用の空間に彩りを添えている。共用空間には、不快な音、光、臭いなどもなく民家改修の良さを活かした温かみのある自然な雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修の為、居室の広さや間取りなどに違いはあるが、入居者それぞれが使い慣れた物や好みの物を持ち込んでおり、居心地良く過ごしている様子がうかがえる。構造上、冷暖房機は取り付けられていないが、温風ヒーター等の使用時は職員がこまめに換気をするなど安全面にも十分に配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。